

財団だより

多摩川

1996.6 第70号



カジカガエル(アオガエル科)
上流の流れのはやい川に住む。
笛をふくようなきれいな声で
鳴く。



4月21日実施された多摩川クリーンエイド(野川・くじら山下原っぱ)

■多摩川現風景■

(26) 多摩川クリーンエイド

今年も多摩川一斉清掃の「第4回多摩川クリーンエイド」が行われた。昨年は45,000名、53ヶ所で盛大に行われた。最近、首都圏の河川に一斉清掃のキャンペーンが輪を広げ、多摩川の規模ほどではないが、昨年秋「桂川・相模川クリーンキャンペーン」が5,550人の参加者を集めた。

11月の「荒川クリーンエイド」は約4,000人の参加者があった。勿論、一年を通じて河川敷の清掃を行っておられる団体はいくつもあるが、団体同志の連帯を図り、一般市民の関心を高めるためにもこのような催しは意義のあることと思われる。

当財団の職員もいくつかの場所で参加したがその感想は……

F君(野川、くじら山下原っぱ 参加)

この原っぱを愛し、日常的に清掃も行っているため、ゴミが少ない。みんなが集まってお祭りを楽しみあっているようで、気持ちのいい日だった。

Mさん(二子玉川、兵庫島 参加)

煙草の吸い殻が多くて、土に埋もれて拾いにく

く困った。軽い気持ちのポイ捨ては簡単だが拾う方は大変だ。終いには集計表に記録できないほどでうんざりした。ポイ捨ては止めましょう。

H君(府中 大丸用水堰 参加)

少人数だったが、水質調査をやって、その後ごみ拾いをした。皆がたいへん気が合って、とても楽しい体験だった。また来年も参加しよう。

●関連する財団の研究助成

<学術研究>

- ① 河川環境に関する計画的研究
-主として多摩川河川敷の保全・利用について-
1982年 進士五十八 東京農業大学 (No.50)
- ② 多摩川における河川敷利用の変遷について
1994年 三井嘉都夫 法政大学 (No.159)

<一般研究>

- ① 多摩川河川敷を訪れる人々の住環境と多摩川流域の利用のあり方との関係について
1981年 喜多野 薫 立花環境設計事務所 (No.18)
- ② 多摩川における散乱ごみの実態把握と対策
鈴木徹也 元一橋大学学生(報告書印刷中)
- ③ 多摩川の河川清掃についての歴史と一斉清掃の実施による参加者の意識と散乱ごみの実態についての調査
小島あずさ 多摩川クリーンエイド(原稿作成中)

多摩川散歩

■ 緑の回廊さわやかさんぽ ■

くにたちマップづくりの会 佐藤節子

国立といえば赤い三角屋根のJR国立駅と、それに続く大学通り、一橋大学が有名ですが、南の谷保地域には素敵な宝物があります。このマップは副題の「湧水・矢川・青柳崖線」が示すとおり、ハケと湧水が主役です。段丘面が作る崖線は三本で、市内の西から東へ帯状に緑が続き、中でも青柳崖線は自然林も多く湧水も見られます。

また、矢川は、立川から国立まで1.5キロの間、立川崖線から湧き出す地下水を集めて流れる小さな川です。86年から毎月この矢川の水質調査を重ねてきた私たちは、自然を残すことの大切さ、水循環を考えたまちづくりの必要性を、TAMAらいふの企画により楽しい絵地図で訴えようと思いました。

表の絵はハケが中心ですが、本当の地図をもとに小さな道までかなり詳しく書いてあります。図上の鳥やトンボなどは、およそ居場所を確認して

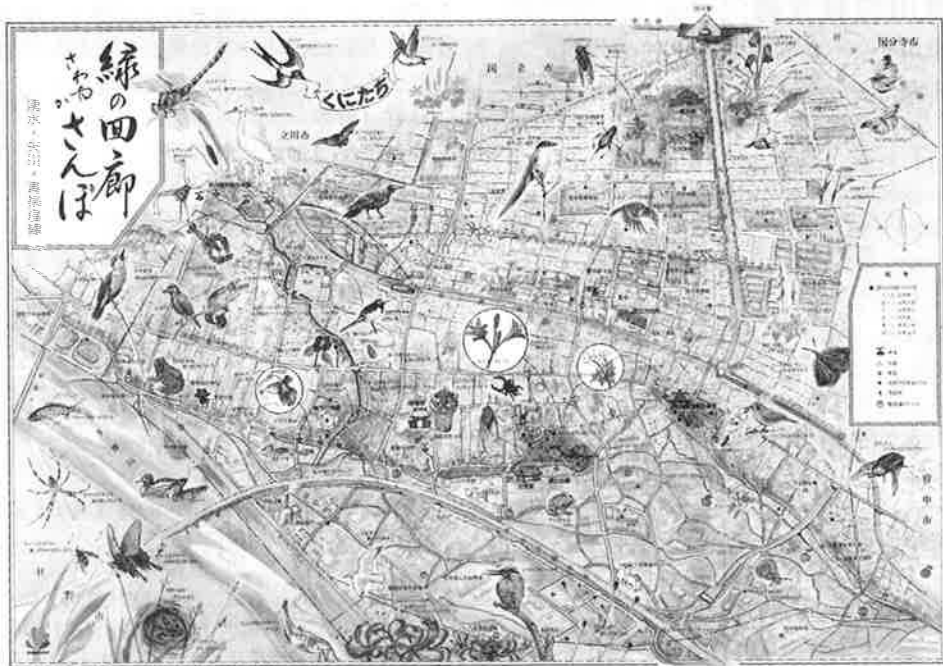
いる箇所に描き、建物はもとより植物も含め、細部にこっています。

裏面には楽しい遊びの記事も取り入れてありますが、私たちの本音の部分として水質調査から見たことや、水循環のこと、さらに「湧水が消える」と題して開発と保全の問題提起をしています。

しかし、このマップを作った4年前と比べ、現在ハケの緑はところどころ切れています。開発の影響は二年続きで矢川が干涸びたことに象徴されています。特に今年は、5か月近く川底にほごりが立つような状態でした。さらに青柳崖線の湧水の上を都道3・3・15号線が通るようなことになれば、未来の子どもたちへの財産を捨てることになるでしょう。

マップについての問合せは下記へご連絡下さい。
〒186 国立市北1-7-21 (安江ビル2階)

国立生活者ネットワーク事務局 倉科・佐藤
TEL 0425-74-8000



私と多摩川

たまがわネット事務局 大田朝美
町田栄子



「二子玉川・多摩堤通りの桜並木（'96.4.10撮影）」

今年の2月から、毎日「二子橋」から「第三京浜」まで歩き、多摩川の観察をしています。観察というほど大袈裟ではありませんが、毎日川に会いに行っている感じです。まだ、ほんの短い時間ですけれども、それでも、川をじっくり見ると、四季の移り変わりがあり、毎日表情の違う川や、人や鳥、木々、花までも、知らないことがあります。本当に驚かされます。

例えば、観察を始めた頃と今とは、川の形や深さが変化してしまっていることです。特に雨が降った後、川の中州が削られてしまったり、上流の方から土砂が流れ込んできたりしたのだらうと思われるようなところがあります。

また、つい最近、鯉が川登をしていたのを見ることが出来たことです。1匹では登れないと分かると、4、5匹群れになり、川の流れに逆らって、必死に登ろうとしているのです。初めて見たのでとても驚いたが、なぜか感動し、力づけられました。

それから、観察をして、つくづく良かったなと、思ったことがあります。

それは、咲き乱れる桜が見れたことです。一斉に桜が咲いたときは本当にすばらしくきれいでし

た。今でも、蕾が膨らみ始めたときには、早く咲かないかなと待ち遠しく思い、じれったさを感じたこと、そしてやっと咲いたときには喜びと、春を身近に感じれたこと、満開の時には、ずっとこのまま咲いていて欲しいと願ったこと、風が強く吹いたり、雨が降ったときには、花弁が散ってしまい、その日の天気を恨めしく思ったこと、そして、とうとう葉桜になってしまったのを見て、寂しさを感じたと、同時に青々とした緑を見て、活動的な気分になったことを、昨日のこのように思い出すことが出来ます。

この観察は、今年の2月、多摩川の川づくりに参加する諸団体の幅広くかつ穏やかなネットワーク形成を目指して、パソコン通信を主なツールに用いた新しいタイプの交流活動を展開するための拠点として、二子玉川に「たまがわネット」という会を開設しましたが、この会の活動の一環として行っております。

既に、NIFTY-Serve上で、「たまがわネットのホームパーティー」を開設し、現在そこで、観察報告等の、情報交換の場にしております。

NIFTY-Serve : 「たまがわネットのホームパーティー」

ID : RXQ 06250

パスワード : TAMA 9603

◆ ◆ ◆

今後、観察の様子や多摩川の様々な情報をインターネット上にホームページを通じ、世界にまで発信していきたいと考えております。

その節は、ご協力お願いいたします。

甦れ！多摩川

■ 谷地川を歩く ■

中央線の日野の駅に降りたつと、改札を出て国道20号線を渡り、北西方向に向かう。道路の脇に日野用水が流れており、多摩川と浅川に囲まれた「水の里」日野だなあと思う。

約2キロばかり歩くと新旭橋がある。この先で谷地川は日野市と八王子市の境界付近で多摩川に合流する。都と建設省との河川管理境界付近の堤地に建設省の河川浄化手法実験施設があり、谷地川の水を取り入れ隣間接触酸化法による水質浄化を行っている。この周辺の多摩川の川原は葦が群生し、非常に野性の強い一帯となっている。茂みの中に入江ができており、釣り人がのんびりと釣り糸を垂れている。

谷地川は延長12.9kmで八王子市内の丘陵地に水源を発し、滝山街道に沿って流れている。新旭橋より上流の谷地川の側道はきれいに整備されており、ユキヤナギ、ツツジ、等の植え込みが目を楽しませてくれる。日産自動車のグランドの下あたりで谷地川は日野市に別れを告げ八王子市へ入って行く。側道にはベンチもおいてあり川岸へおのりる階段や、入口も設けてあるが、現在は川が汚れているので解放していないのは残念だ。

新鶴見橋あたりは川は半分位土が堆積して草花が生えている。八高線の高架の下をしばらく行くと、川原にはマガモが数羽水浴びをしていた。

青木橋を過ぎて、八王子バイパスをくぐると、金網のフェンスで囲まれた普通の側道になる。新権水橋をすぎる辺りでは、川の堆積土に繁茂した植物の群落が川の半ばを占有する。ここでも、水辺への階段も設けられて

いるが、今のところ開放されていない。水の流れも30～40センチほどの細い流れになって茂みの中を流れている。

左滝橋を進むと、やがて河川整備工事に直面する。約500米ほどの工事現場を迂回する。

都の南多摩西部建設事務所では、多自然型川づくりを行っており、ワンド、緩傾斜護岸、植樹帯、魚道も設けられ、人

と生物にやさしい川辺を目指しているそうだ。完成を楽しみに待ちたい。加住丘陵もこの辺りになると、段々と狭くなってきている。

滝山橋のあたりになるとコンクリート堤にかこまれてはいるが「春の小川」という感じで細い流れが続く。生活排水の影響か、水質はかなり濁って、臭いも鼻をつく。八王子市では、谷地川の水質調査を行い、BODで13ミリグラム（国の環境基準5ミリグラム）もあり。生活排水を改善する協議会を発足して、早急に対策を推進するようである。滝山城址の下を、明王下橋、つきみ橋と過ぎると、また河川整備工事が200米ほど行われている。この辺りにはカワセミの営巣地があるので、小島として保全するそうだ。

宮下橋までは川を離れ滝山街道を行く。宮下橋から上流は民有地が迫って、側道がなくなり、川に沿って歩きにくい。谷地川もこのあたりになると滝山街道沿いにくねりながら畑の中を流れている。さすがに流れが細くなり源流に近くなっていることがわかる。周辺の緑も多いので、ほっとする。

関戸橋を過ぎると、谷地川はやがて竹藪のなかに消えて行き、その先は丘陵の雑木林の森となっていかに源流のある森という感じだ。

このあたりの地名は戸吹といい、東京サマーランドにも近い地域である。この川を歩いてみて感じたが、コンクリート護岸に囲まれてはいるものの、中洲には豊かな自然があり、行政の取組みも緒についたばかりではあるが、都市の貴重な自然空間を回復する努力がはじまっているのを感じる。生活排水の改善があれば、住民が誇りに思う素晴らしい川になると思った。

翡翠



財団からのお知らせ

第2回とうきゅう環境浄化財団 助成研究ワークショップのご案内

『マルチメディア時代の環境学習』

環境学習において、パソコンに代表されるマルチメディアを活用する事例がよく見られる。児童・生徒もたしかに、新しい時代の変化を肌で感じており、これらの新しいメディアに興味をもち、楽しく環境問題へ取り組んでいる例も多い。他方、児童・生徒には本来の自然体験がより大切であり、実際に自然に触れて感動する心を育てることが基本であるとの意見も多い。

財団の助成研究のなかから関連する研究を選び、ワークショップを行うことにより、マルチメディア時代における環境学習の指針をさぐりたい。

日時／平成8年8月7日(水)
13:00～16:00

場所／国連大学 5階
Conference Hall

主催／財団法人
とうきゅう環境浄化財団

プログラム

13:00	開会挨拶	とうきゅう環境浄化財団 常務理事 コーディネーター	芳村重徳
13:05	報告1	「小中学校の授業における、多摩川環境情報提供システムを活用した環境教育の方法についての研究」 '93～'95助成 多摩市立西永山中学校 教諭	棚橋 乾
13:35	報告2	①「カードとパソコンによる多摩川原の植物の同定」'86～'88助成 ②「住民に提供するための多摩川流域の植物写真画像システム作成に関する研究」 '95～'97(予定)助成 成徳学園中等高等学校 講師	大川 ち津る
14:05	報告3	「河川の学習機能に関する研究 -多摩川及び横浜市内河川における子どもたちの活動をケース・スタディとして-」 '88～'89助成 横浜市立帷子小学校 教諭	松下 希一
14:35	休憩(15分)		
14:50	総合討論会	コーディネーター とうきゅう環境浄化財団 常務理事 コメンテーター 麗沢大学 教授	芳村重徳 宮川公男
16:00	閉会		



○駐車場はございませんので、お車での御来場はご遠慮下さい。

定員
100名

参加費
無料

申込方法

往復ハガキに住所・氏名(勤務先の場合は役職名、自宅の場合は所属団体名)各々の電話番号を明記し事務局までご送付下さい。

申込〆切

お申込みは先着順で定員になり次第、〆切ります。(定員以内の場合は、7月20日〆切り)

お申込み・お問い合わせ

〒150 東京都渋谷区渋谷1-16-14(渋谷地下鉄ビル内)

(財)とうきゅう環境浄化財団

TEL 03(3400)9142

FAX 03(3400)9141

〈平成8年度研究助成選考結果〉

去る3月6日第38回定時選考委員会を開催し、平成8年度の研究課題の選考を行い、学術研究8件一般研究3件が採用されました。研究課題は次のとおりです。

研 究 課 題	代表研究者	所 属
(学術研究)		
●多摩川河川敷のカビ臭発生原因としての河床付着微生物の研究	山 本 鎔 子	明 治 大 学 農 学 部 教 授
●多摩川水源域の防火帯に発達する草本植物群落の個体群維持における訪花昆虫の役割	鈴 木 和 雄	東 京 都 立 大 学 理 学 部 助 教 授
●神奈川県から多摩川流域・東京湾へ流入する排水量の変遷およびその影響	原 美 登 里	立 正 大 学 大 学 院 地 理 学 専 攻 博 士 課 程 1 年
●多摩川上・中・下流および河口における底泥中の石油系炭化水素の微生物分解浄化	小 林 晶 子	東 京 農 工 大 学 工 学 部 助 手
●多摩川全域における溶存有機化合物の蛍光分析と構造変化に関する研究	石 井 忠 浩	東 京 理 科 大 学 理 学 部 応 用 化 学 科 教 授
●多摩川最上流域における水質形成に及ぼす立地環境の影響の解明 -環境変化に対する水源水質の予測モデル構築に向けて-	小 野 寺 真 一	筑 波 大 学 環 境 科 学 研 究 科 文 部 技 官
●多摩川上流域における付着層形成過程の解析	森 川 和 子	東 京 農 工 大 学 農 学 部 助 教 授
●武蔵野のローム層における降雨浸透機構および物質移動特性に関する研究	唐 常 源	千 葉 大 学 環 境 リ モ ー ト セ ン シ ン グ 研 究 セ ン タ ー 助 教 授
(一般研究)		
●多摩川中流域における神社の境内の樹木の研究 -特に樹種類構成とその配置について-	秋 山 好 則	東 京 都 立 武 蔵 高 校 教 諭
●多摩丘陵から涌出する地下水の研究 -生田緑地・早野の現況調査及び溜池あとの調査-	及 川 利 男	サ タ デ ィ ー ・ サ イ エ ン ス ・ ス ク ー ル 代 表
●玉川上水の維持管理技術と美観形成に関する研究	榮 森 康 治 郎	工 学 院 大 学 専 門 学 校 講 師

寄贈文献の紹介

●「森の敵森の味方ーウイルスが森林を救うー」

著者 片桐一正 1995年 (株)地人書館
著者は森林を一つの生物体ととらえ、その中でくりひろげられる植物、動物(昆虫)、微生物(ウイルス)等の食物連鎖のメカニズムを解明し、農業を使用しないで微生物天敵を利用した森林の維持管理・森林保護の在り方を説いている。

●「川にきくー水辺の防人たちの物語ー」

著者 岡村直樹 1996年 (株)創樹社
川に魅せられた著者が全国の一級水系109河川のうち105水系を踏破した中から、多摩川を初め31河川について「川と人のかかわり」について生業、伝統文化、川遊び、自然保護等を取材し、まとめたエッセイ集である。

・発行日 平成8年6月1日
・編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03)3400-9142

FAX (03)3400-9141

*印刷所 雄文社 〒336 浦和市常盤9-11-1 TEL(048)831-8125

